

ふるさと探訪

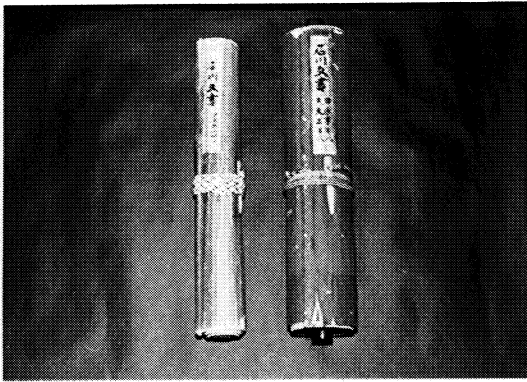
県重要文化財

(戦国時代の貴重な古文書)

首藤家所蔵石川文書

(二巻三十四通)

石川氏一族の石川大寺氏に宛てた戦国期南奥州の大名諸家(会津蘆名、岩瀬二階堂、岩城、伊達、田村など)の文書である。三十四通のなかでも永享六年(一四三四)蘆名盛政讓状は、室町期蘆名氏の所領状況を示す貴重な資料である。また、二階堂盛義、岩城重隆、



石川文書二巻

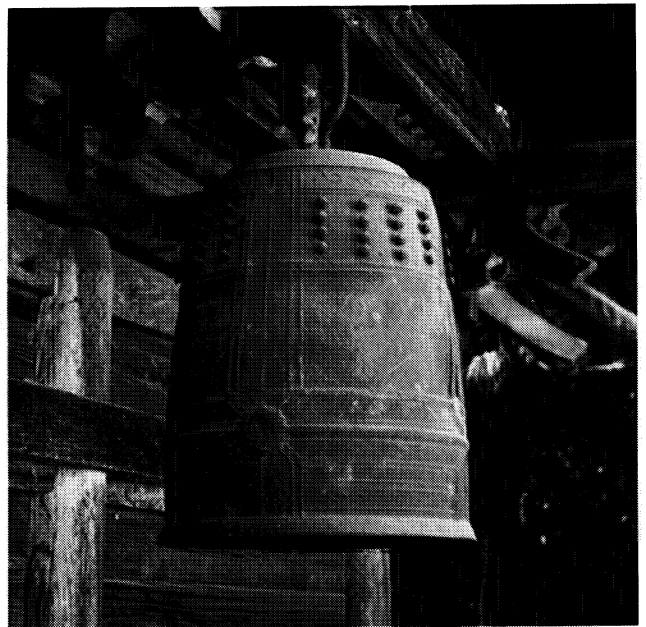
伊達植宗、田村清顕などの書状があつて、戦国期南奥州すなわち本県地方の政治情勢をうかがうに足る文書群として、その資料的価値は大である。

所在地 玉川村大字中字向七十九番地

所有者 首藤忠行



二階堂盛義氏の書状の一部



白河、龍蔵寺にある青銅製の「銅鐘」

(戦国時代の工芸品)

銅鐘 (一口)

もと鹿島神社別当鹿王山最勝寺の銅鐘であり、池の間二面に陰刻銘がある。

この銘文は松平定信(楽翁)の「集古十種」にも採録されている。銘によれば、この銅鐘は天文十三年(一五四四)に铸造され、また、白河掬目城主結城白川氏親子や、重臣たちの名がみえる。作者は鋳物師早山濟次であり、かれが自鑄し、自刻したという意味の「同時切」の三文字がある。

地方在住の鋳物師の作になる室町末期の銅鐘として貴重である。

所在地 白河市大字鹿島三十四番地 所有者 龍蔵寺